

まえがき

私はこの10年ほど、ビートルズの歌詞に焦点を合わせた執筆を行っている。最初に発表したのが“ビートルズ英語読解ガイド”（2007年初版発行）、続いて“ビートルズ作品読解ガイド”（2008年初版発行）。ビートルズ作品計188曲（増補版では計214曲）の歌詞すみずみの意味を明らかにし、そのような解釈の理由を解説した。それは世界的に見ても画期的な著作だった。それまでのビートルズ関連図書は、伝記、写真集、ディスコグラフィ、作歌の簡単な背景説明、録音データの一覧、もしくは楽曲分析を主題とするものだったからである。ビートルズの文芸は無視されていた。

私の情熱は燃え続け、さらに二冊を著述。“ビートルズ英語文法ガイド”（2008年初版発行）においては、歌詞となる英文の規則を抽出し、体系的にまとめた。そして“ビートルズ作品英和辞典”（2009年初版発行）によって、それらを便覧化した。

しかし、ビートルズ英語のすべてをカバーしたわけではなかった。探究し尽くしていない分野があったのだ。それは歌詞の音である。上述の著書では、レコード原盤もしくは日本盤に付属または付随する歌詞のプリントを土台にして議論を行ったわけで、この基盤の成立ちには触れなかった。

そこで、本書では、ビートルズ英語の発音に焦点を当てる。

日本語にいわゆる五十音があるように、英語にも基本的な音がある。その数は、学者によって異なるが、基本母音が15（もしくは18）、二重母音が5（もしくは8）、三重母音が3（もしくは5）、子音が27。この一つ一つを第1章で説明し、各音がどのような文字で現れるかを示し、それを含む単語でビートルズの歌詞に登場するものを一覧化する。

第2章では逆方向の考察を行う。つまり、アルファベットの各文字がどのような音を表すかを探り、その例を含む単語でビートルズの歌詞に使われているものを列挙する。

さらに、第3章においては、音の変化について解説する。

母音、子音のそれぞれが、どのように発音されるかは、私自身の言葉で説明する。しかし、図解を加えたり、モデル発音を録音したCDを添付するようなことは、差し控える。これらを含んで、発音に特化した学習書が多く出版されているからだ。本書の読者も既に手にしたことがあるだろう。本書を無闇に飾り立てても、価格が上がるだけで、読者の益になるかは疑問と考えた。そもそも、発音のサンプルは、ビートルズのレコードに大量に録音されている。そして、歌唱に際する彼らの発音は、英国または米国における標準的な発音に慣れている人が違和感を受けないものである。なかでもマッカートニーは、常に各音を丁寧に発している。

図解やCDを付けない代わりに、ビートルズの音盤で聞くことのできる例語や事例をふんだんに示してある。これほどの例を挙げている英語発音解説書は他にないであろうし、これこそが、いわゆるビートルズ本としての本書の価値であるというのが私の所存だ。

本書について意見などがあれば、お聞かせ願いたい。誤謬の指摘や異論は、特に歓迎する。

2019年3月

秋山直樹